中国の大学の地域間格差

－日本語専攻を比較して－

北京研究連絡センター

夏本　華芳

1. はじめに

本研修により北京研究連絡センターに赴任して最初の出張が、西安市にある西安交通大学で開催された『世界著名大学博覧会』[1]であった。西安の空港の出口では、西安交通大学の学生が私達を出迎えてくれ、宿泊先までの案内、博覧会当日の通訳まで務めてくれた。彼は外国語学院の日本語専攻の学生で、とても流暢な日本語を話していたため、留学していたのだろうと思い聞いてみたところ、留学経験はない、とのことだった。また、北京にある英会話学校で知り合った女性は、筆者が日本から来たことを知ると、流暢な日本語で話しかけてくれた。彼女は外国語大学を卒業後、日系企業で働いているが、留学経験はない、とのことだった。

北京や天津といった大都市には、外国語大学もあれば、英会話学校をはじめとする外国語学習環境も整っている。外資系企業も多く進出しているため外国人も多く、留学経験がなくとも英語等の外国語が話せる人が多いことは不思議ではない。しかしながら、西安は広大な中国のちょうど中央ほどに位置する都市で、いわゆる「内陸部」の都市である。

筆者は、学生時代に中国の経済格差や教育格差について研究をしていたのだが、東部沿岸部と中部内陸部、そして都市部と農村部の格差は、大きな課題として認識していた。今回の赴任にあたって、北京や上海、広州、深圳といった沿岸部の都市における近年の経済成長を見聞きするたびに、その勢いに驚くと同時に、内陸部や農村部は一体どの程度成長し、どのような状況になっているのか、気になっていた。

本報告書では、上記のような問題意識から、中国の大学における地域間格差について考察していきたい。次章以下では、中国の経済状況を念頭に置いた上で、大学を取り巻く政策について大まかに触れた後、大学ランキングを用いて、中国国内の大学の位置付けを分析してみたい。さらに、異なる 4 つの地域の大学の教員に行ったインタビューの内容を整理し、沿岸部と内陸部の大学の比較を行った後、最後に考察としてまとめる。

2. 中国の経済の概況と大学を取り巻く政策

2-1. 中国経済の概況

中国経済は、その成長が目覚ましく、2011 年には GDP が世界 2 位[2]となり、それ以後も高い成長率[3]を保ってきた。一方で、一人当たり名目 GDP[4]は依然として 8,643 ドル（76 位）であり、

---

[1] JSPS 北京研究連絡センターホームページ
http://www.jsps.org.cn/jspsbj/site/newsinfo/hdjp_detail.jsp?pid=1180&ld=1526529478171&yu=J

[2] 「世界の実質 GDP 国別ランキング・推移」https://www.globalnote.jp/post-1332.html によれば、2017 年の実質 GDP は、1 位米国（17,348,626 百万ドル）、2 位中国　（10,158,897 百万ドル）、3 位日本（6,157,659 百万ドル）

[3] 「世界の実質 GDP 成長率 国別ランキング・推移（IMF）」https://www.globalnote.jp/post-12798.html によれば、2017 年の実質 GDP 成長率は、米国 2.22%（134 位）、中国 6.86%（17 位）、日本 1.74%（147 位）

[4] 「世界の 1 人当たり名目 GDP　国別ランキング・推移（IMF）」https://www.globalnote.jp/post-1339.html

GDP 世界第 1 位のアメリカ 59,792 ドル（8 位）、そして中国に抜かれて第 3 位となった日本の 38,449 ドル（25 位）と比べるとまだまだ発展途上と言っても良いだろう。その背景には、約 14 億という世界最大の人口と、都市部と農村部を隔てる格差が大きく存在している。2017 年の、都市部に住む人々の可処分所得が 36,396 元であるのに対して、農村部住む人々の可処分所得は 13,432 元と、約半分であった[5]。2000 年の同データは、都市部 6,256 元に対して農村部は約 3 分の 1 の 2,282 元であったため、格差は縮小してきていると言える。

2-2.「一帯一路」政策

著しい経済成長に注目が集まる一方で、西部地域の開発遅れによる国内格差の問題もあり[6]、2013 年に「一帯一路」構想が打ち出された。「一帯一路」構想とは、「シルクロード経済帯」と「21 世紀海上シルクロード」によって、中国と中央アジア、南アジア、西アジア、東南アジア、中東、欧州とを陸路と海路でつなげて一大経済圏を構築しようとするものである。中国国内だけを対象とした経済政策ではなく、グローバルな協力関係を築くことで世界経済の成長と均衡の問題を解決することを目指している[7]。そのカバーする沿線国は 64 か国に上ると言われ、協力の重点項目としては、政策面での意思疎通、インフラの廉潔性、貿易の振興、資金融通、民間交流の 5 つの分野が挙げられている[8]。

また、デロイト（德勤中国）によれば、「一帯一路」では、特に東部と中部と西部の、そして沿岸部と内陸部の連動した発展を促進することに重きを置いており、この 5 年間で、確かに地域間格差の縮小にある程度寄与した。各地域には役割があり、例えば、新疆ウイグル自治区は「シルクロード経済帯の核心区」、福建省は「21 世紀海上シルクロードの核心区」、広西チワン族自治区は 21 世紀海上シルクロードとシルクロード経済帯をつなぐ重要な玄関口、雲南省は南アジア・東南アジアをカバーする中心地、などである。

図 1　陸のシルクロードと海のシルクロード[9]

---

[5] 『中国統計年鑑 2018』http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2018/indexch.htm
[6] 「中国『一帯一路』どう見る㊤」『経済教室』日本経済新聞 2017 年 7 月 20 日
[7] デロイト（德勤中国）による「一帯一路の最新動向と中国経済に関するアップデートセミナー」（2018 年 8 月 20 日）に参加後、筆者より問合せた際の回答。
[8] 河合正弘「中国の『一帯一路』構想とは何か」『中国「一帯一路」構想および交通インフラ計画について』国立研究開発法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター（2016 年 3 月）
[9] 「軽視できぬ中国『製造強国』の伝播力」日経ビジネス電子版 https://business.nikkei.com/atcl/report/15/278202/090100069/

2-3.「双一流」政策

中国でこれまで実施されてきた大学を取り巻く主な政策は、「211 工程」、「985 工程」、そして近年始まったばかりの「双一流」がある。「211 工程」は、「21 世紀までに 100 ほどの大学を重点的に構築する」という 1995 年に打ち出されたプロジェクトで、「985 工程」は、1998 年 5 月に当時の江沢民主席の講話に基づいて進められた、高等教育の更なる発展のための、世界先進レベルを目指す一流大学構築プロジェクトであった。1990 年代に始まったこの 2 つのプロジェクトでは、相当額の投資がなされ、各省に少なくとも 1 大学は重点大学が置かれ、高等教育における基礎的なインフラ設備や規模の拡大といった成果を挙げた[10]。なお、2 つのプロジェクトに採択された大学は、そのほとんどが経済発展の進んだ東部沿岸地域の大学であったため[11]、地域間の経済格差が高等教育にも反映されたことについて触れておきたい。

次のステップとして、2017 年に、高等教育の水準を向上させ、「世界一流」を目指すべく、「世界一流大学・一流学科」の建設が始まった。「一流大学」と「一流学科[12]」、すなわち二つの「一流」を建設する、ということから、「双一流」と呼ばれているこの政策は、その背景に中国の経済成長方式の転換がある、という。中国経済は高い成長率を維持しながら、投資型からイノベーション型へ、資源の大量消費から全要素生産率の向上へ、高度成長から高質の成長へ、と転換してきたため、それに必要な人材支援と知識貢献に対応できるように大学建設を拡大することになった[13]。

「双一流」大学のミッションは 5 つあり、①一流の教員団の構築、②イノベーション人材の育成、③科学研究レベルの向上、④優れた文化の伝承と創生、⑤科学研究成果移転の推進、である。ミッション達成のために必要とされる改革も 5 つあり、(1)党の指導の強化と改善、(2)規則に基づいた管理システムや学術組織の構築と民主的管理監督制度の整備、(3)人事制度、教育モデル、化学研究体制とメカニズム、資源集積メカニズム等に重要項目の改革、(4)地域社会や産業界との連携、(5)国際交流・連携強化の推進による国際競争力の向上、である。

「双一流」には、目下、135 大学が採択されており、うち 42 大学が「一流大学」建設、93 大学が「一流学科」建設の対象となっている。「双一流」に採択されるためには、まず、大学の中に「世界一流の学科」を目指せる研究分野があることが必要条件となる。その選定基準は、世界先端のレベルにあること、国家の需要に合致すること、そして、歴史的基盤の上に優れた研究教育を行っていること、の 3 点である。この基準を満たした研究分野が 15～20 あれば、大学全体としても「世界一流」を目指せる水準にあり、「世界一流大学」として採択する、という流れである[14]。

これまでの「211」「985」との違いは、競争性と流動性があることである。まず、「一流大学」建設に採択された大学は A 類と B 類に分けられる。これによって大学の改革と発展を加速させ、

---

[10] 胡志平「『211』『985』『二つの一流』と中国のハイレベル大学建設について」（2017 年 10 月 16 日講演）
国立研究開発法人日本科学技術振興機構中国総合研究交流センター第 109 回研究会
によれば、「211」では 558.86 億元、「985」では 1119 億元が投じられた。

[11] 新井聡「中国 2015 年高等教育法改正の意義」『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』2018 年 6 月

[12] 「学科」とは、日本語では「専門」や「分野」に相当する。

[13] 関維方「中国高等教育の発展戦略」『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』2018 年 6 月

[14] 同上

B 類の大学に A 類の大学を追わせる、のだという[15]。次に、動態的評価を導入し、各大学の計画と自己評価に基づき、第三者の評価を参考にしながら、実施状況が良好で成果が見える大学に対しては支援を強め、反対に進捗が芳しくなく成果が乏しい大学に対しては、注意喚起をすると同時に支援を緩める。また、5 年の採択期限を設けており、期間ごとの評価の結果次第では採択から外れることとなる。言い換えれば、現在採択されていない大学でも、次の 5 年で採択される余地はある、ということである。

なお、先に述べたように、「211」「985」では高等教育の基盤整備と規模拡大に重点を置いていたため、東部沿海地域の大学が先に発展し、西部内陸部の大学は遅れをとる形になってしまったが、「双一流」では地域的なバランスを重視していることが特筆すべき点として挙げられる[16]。

3. 大学の地域分布

3-1.「双一流」大学の分布

「双一流」には、北京大学や清華大学をはじめとする世界的にも著名な大学が名を連ねているが、果たして地域間のバランスは取れているのか、という点を検証してみたい。採択された 135 大学を、その所在する市・省[17]別に累計すると、表 1 のようになった。北京市が圧倒的に多く、次いで多い江蘇省と上海市を合計しても及ばない数の北京市の大学が採択されている。一方、新疆ウイグル自治区をはじめとする少数民族の自治区にも、少なくとも 1 つは「双一流」大学がある。

表 1　「世界一流大学・一流学科」大学の市・省別大学数[18]

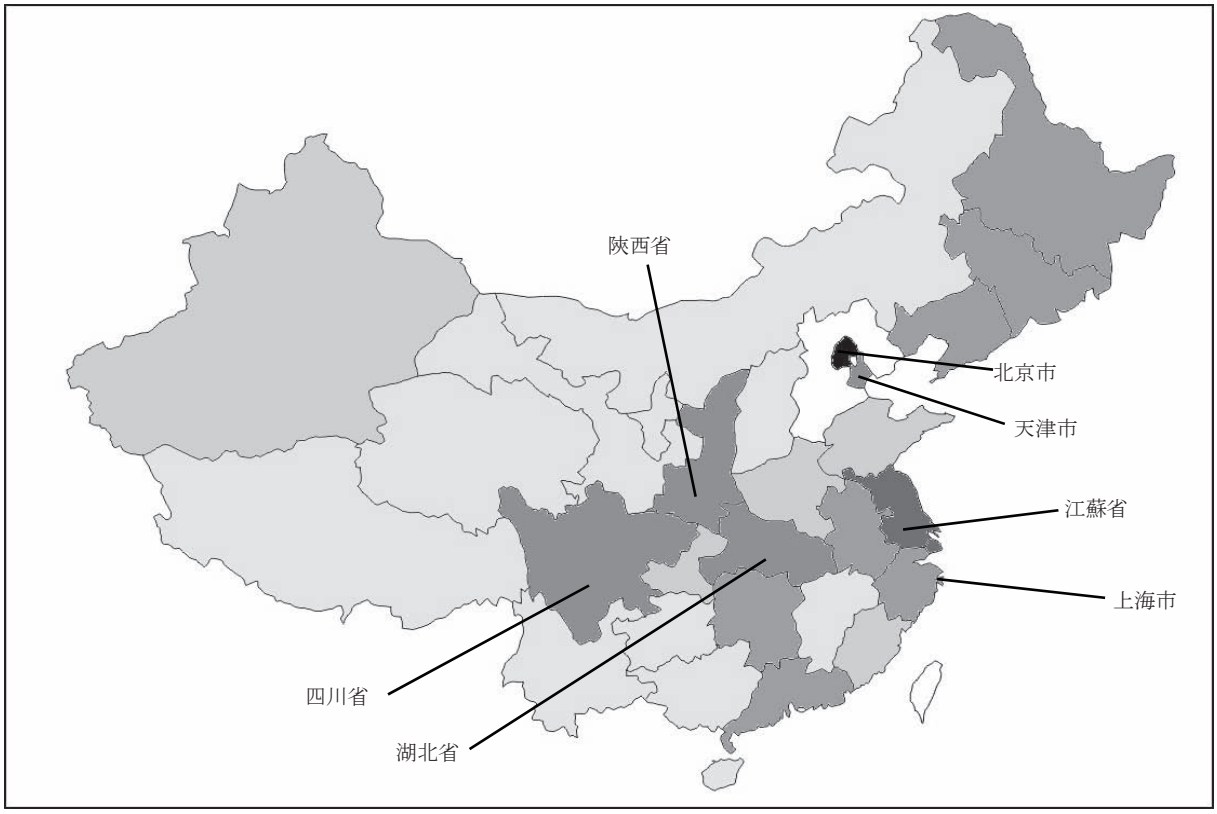
市・省	大学数	市・省	大学数
北京市	31	広東省	5
江蘇省	15	遼寧省、湖南省、黒竜江省	4
上海市	14	浙江省、安徽省、吉林省	3
四川省、陝西省	8	山東省、新疆ウイグル自治区、河南省、重慶市、福建省	2
天津市、湖北省	6	山西省、青海省、内モンゴル自治区、寧夏回族自治区、雲南省、海南省、広西チワン族自治区、貴州省、甘粛省、チベット自治区、江西省	1

表 1 を地図上に示したものが図 2 である。図から、唯一、河北省には「双一流」大学がないことが読み取れる。「双一流」大学の中には、河北工業大学があるが、主要キャンパスは天津市にあるため、天津市にある大学とされているようだ。同大は河北省廊坊市にもキャンパスがある。

---

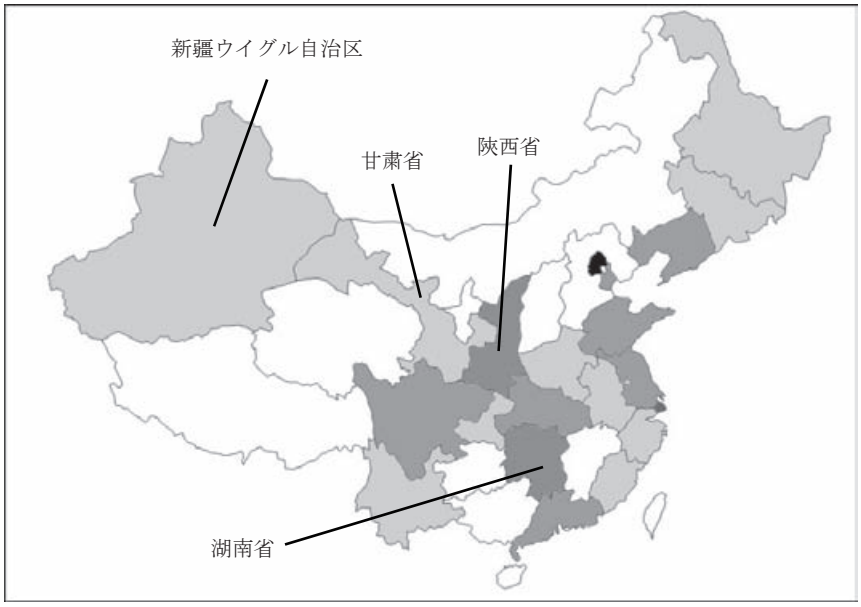
15 「世界一流大学和一流学科」https://baike.baidu.com/item/世界一流大学和一流学科/22135305
16 関（2018）
17 大学の所在地については、「高考派大学知名度排行（高考派大学知名度ランキング）」http://www.gaokaopai.com/paihang-otype-6.html を参照した。

図 2　「世界一流大学・一流学科」採択大学の地域分布[19]



■20 大学以上、■11～19 大学、■6～10 大学、■3～5 大学、■2 大学、■1 大学

図 3　「世界一流大学」採択大学の地域分布[20]



■8 大学、■4 大学、■3 大学、■2 大学、■1 大学

「双一流」のうち、「世界一流大学」建設を目指す 42 大学のみを取り出し、同様に地図上に示したものが図 3 である。ここで注目したいのは、依然として北京市と上海市が上位に付けているものの、中部の湖南省や陝西省、およびその周辺、さらに内陸の甘粛省と新疆ウイグル自治区にも採択大学があることである。

[18] 前出「世界一流大学和一流学科」に掲載の採択リストより筆者作成
[19] 前出「世界一流大学和一流学科」に掲載の採択リストを参照に筆者作成
[20] 同上

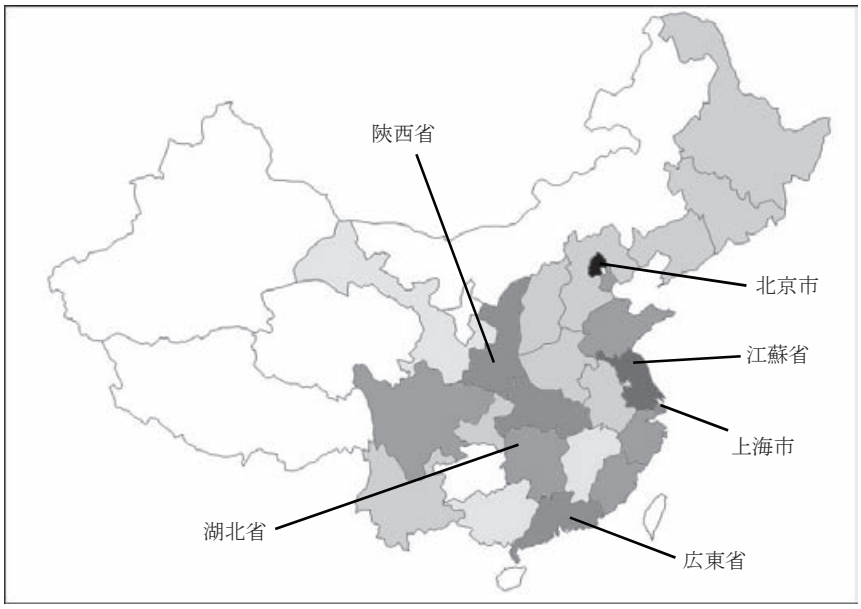
3-2. 大学ランキングから見る大学の地域分布

次に、大学ランキングを活用して、学生やその父兄などの一般市民の視点から大学の位置付けを見てみたい。北京大学、清華大学、復旦大学といった北京市や上海市にある大学が、知名度も難易度も高く、上位であることは容易に想定がつくが、内陸部にある大学は果たしてどのような位置付けにあるのだろうか。大学ランキングと言えば、QS や Times Higher Education が主な指標となっているが、中国国内の位置付けを分析するにあたり、新東方[21]が 2018 年 12 月 25 日に発表した「2019 中国大学排名 100 強（中国大学ランキングベスト 100）」[22]を用いることとする。100 位までにランクインした 102 の大学を、その所在する市・省別に累計し、地図上に分布を示したものが、表 2 および図 4 である。ランクインした大学数の分布状況が、沿岸部に集中していること、また同時に、湖北省と陝西省を中心とした内陸部にも一定数あることが分かる。

表 2　2019 中国大学排名 100 強にランクインした大学の市・省別大学数[23]

市・省	大学数
北京市	18
江蘇省	12
上海市	9
湖北省、陝西省	7
広東省	6
浙江省	5
四川省、山東省	4
天津市、湖南省、福建省	3
吉林省、安徽省、黒竜江省、遼寧省、重慶市、河南省、雲南省、河北省、山西省	2
甘粛省、江西省、広西チワン族自治区	1

図 4　2019 中国大学排名 100 強にランクインした大学の地域分布[24]



■16 大学以上、■11～15 大学、■6～10 大学、■3～5 大学、■2 大学、■1 大学

[21] 北京新东方教育科技（集团）有限公司。1993 年に設立した、北京市にある民間の総合教育訓練機関で、外国語教育、小中学基礎教育、就学教育、オンライン教育、留学カウンセリング、図書出版等の事業を展開している。大学ランキングだけでなく大学入試対策情報を掲載した「高考網（大学入試ネット）」http://gaokao.xdf.cn/を開設している。

[22] 「2019 中国大学排名 100 強」http://gaokao.xdf.cn/201812/10838484.html　上位 20 位までの大学は以下のとおり。

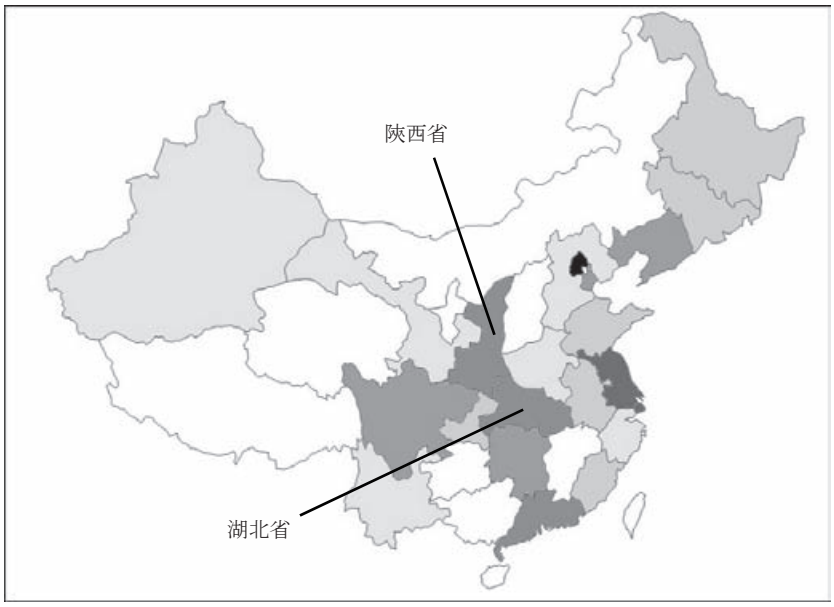
1	北京大学	7	上海交通大学	12	華中科技大学	17	北京師範大学
2	清華大学	8	南京大学	13	天津大学	18	西安交通大学
3	中国科学院大学	9	武漢大学	14	四川大学	19	哈爾浜工業大学
4	復旦大学	10	中山大学	15	中国科学技術大学	20	中南大学、山東大学
5	中国人民大学、浙江大学	11	吉林大学	16	南開大学		

なお、他にも大学入試対策サイトは複数あり、ランキングも「知名度ランキング」「難易度ランキング」「就職ランキング」などがある。

[23] 新東方「2019 中国大学排名 100 強」より筆者作成

[24] 同上

図 5　QS University Ranking of Mainland China 2019 の大学の地域分布[25]



■20 大学以上、■11～19 大学、■6～10 大学、■3～5 大学、■2 大学、■1 大学

では、中国国外の視点からみた大学ランキングの地域分布はどうか。QS が 2018 年 10 月に発表した University Ranking of Mainland China 2019[26]による地域分布（図 5）では、図 2～4 と同様に、北京市、上海市、江蘇省の大学が多くランクインしており、中部の陝西省、湖北省、広東省が続く。

以上のような分析の結果から言えることは、かつての「211」「985」時代と同じように、現在でも東部沿海部にある大学が引き続き重視されているが、それと同時に陝西省や湖北省、湖南省、四川省、広東省などの中部・内陸部についても、大学の発展のための支援に力を入れ始めている、ということである。特に図 1 と図 3～5 を見比べた時に、西安（陝西省）、蘭州（甘粛省）、ウルムチ（新疆ウイグル自治区）を通る「陸のシルクロード」と福州（福建省）、広州（広東省）などを経由する「海のシルクロード」が、「世界一流大学」採択大学がある地域あるいはランキングに名前が挙がる大学がある地域と重なる。例えば、西安市は、「一帯一路」の推進以来、新興産業とハイテク産業を発展させ、イノベーション都市としての地位を確立してきた。科学技術イノベーションは発展を促す最大のけん引力であり、西安市は、イノベーションを軸に大きな働きをすることが期待される[27]。また、重慶市や武漢市（湖北省）なども研究開発型都市あるいは技術拠点として成長している[28]。これらの地域にある大学は、その地域経済とともに今後の成長が期待できるのはないか。また、政策の面からも、中部、西部にある大学も、その地域の特色や優位性を活かした発展を後押しするものと期待できる。

---

[25] 「QS University Ranking of Mainland China 2019」
https://www.topuniversities.com/university-rankings/rankings-by-location/mainland-china/2019 より図 1～3 と同様の手順で筆者作成

[26] 99 の大学がランクインし、上位 20 位までの大学は以下のとおり。

1	清華大学	6	上海交通大学	11	西安交通大学	16	上海大学
2	北京大学	7	南京大学	12	同済大学	17	華中科技大学
3	復旦大学	8	中山大学	13	北京師範大学	18	吉林大学
4	中国科学技術大学	9	武漢大学	14	中国人民大学	19	北京理工大学
5	浙江大学	10	哈爾浜工業大学	15	南開大学	20	北京航空航天大学

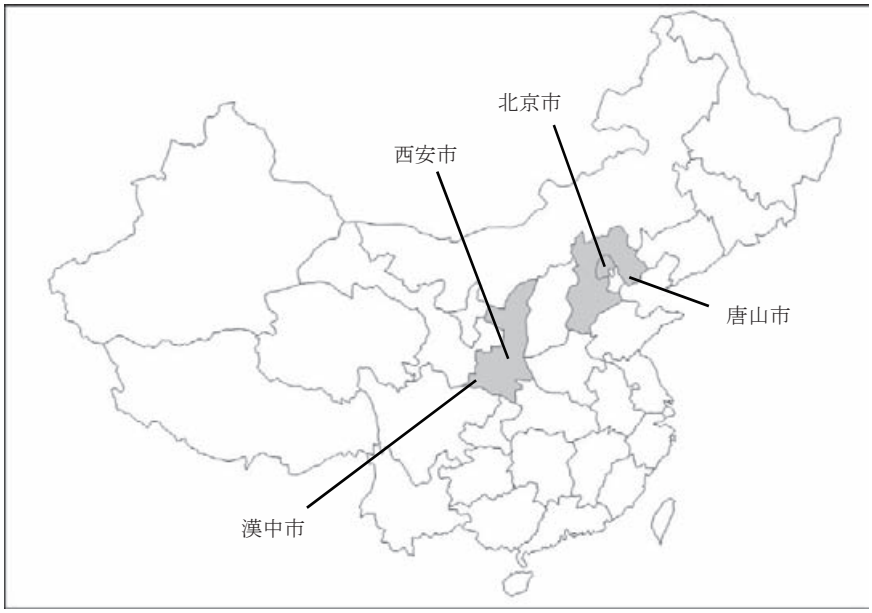
[27] デロイト（德勤中国）

[28] 鈴木貴元「デジタル時代の中国地域開発」（2018 年 12 月 13 日）ジェトロ北京事務所によるミニ勉強会「中国の地域開発動向と PPP モデルの実態」

4. 地域ごとの大学の実状

4-1. インタビュー対象大学の所在市

図 6　インタビューを行った大学のある都市の位置関係



インタビューの対象として、大都市の代表である首都・北京市、沿岸部の地方都市である河北省の唐山市、内陸部に位置し経済政策的にも重要な位置付けにある陝西省の西安市、同じ陝西省でもやや辺鄙な位置にある漢中市を選んだ。特に筆者は、冒頭でも触れた西安交通大学がある西安市（陝西省）に着目した。

4 市を簡単に紹介すると、北京市は、中国の首都かつ直轄市であり、政治と文化の中心である。唐山市は、河北省東部に位置し、北京市と天津市とともに「京津唐工業基地」と呼ばれ、鉄鋼や石油などの豊富な資源を活かした鉄道を始めとする運輸が発達している。1976 年に大地震が発生し、復興を遂げている。陝西省の省都である西安市は、シルクロードの起点[29]となる地であり、「一帯一路」政策において「内陸型改革開放の新高地」と位置付けられている。この 5 年間で、国際化大都市建設や自由貿易試験区建設等の政策を受け入れており、飛躍的な発展を果たした[30]。漢中市は、陝西省南部に位置し、市の中心には長江の最大支流である漢江が流れている。第二次産業の成長が著しく、産業エリアや工業エリアの開発が進んでいる。

表 3 は、4 市の経済状況の参考となるデータと、高等教育機関数およびその在学生数を一覧にしたものである。北京市は首都であり直轄市でもあるため、他の 3 市と単純に比較するのは適当ではないが、不動産開発面積（施工中住宅、竣工住宅）は、北京市よりも西安市の方が大きく、急速に開発を進めていることが読み取れる。また、4 市の GDP を比較すると、漢中市が最も少ないが、成長率は最も高い。2017 年の前年比 GDP 成長率については、陝西省が全国 26 省で最も高かったが、その陝西省の中で最も成長率が高かったのは漢中市であった。高等教育機関の数およびその在学生数では、圧倒的に北京市が多く、次いで西安市、唐山市、漢中市、の順となり、各市間で大きな差が見られる指標である。

---

[29] 西安交通大学は、2015 年に「University Alliance of the Silk Road」を立ち上げ、東南アジアや中東、欧州等の大学との交流、連携の強化を図っている。2018 年 5 月時点で 36 カ国から 135 大学が加盟している。
http://uasr.xjtu.edu.cn/About_UASR/UASR_Introduction.htm

[30] デロイト（德勤中国）

表 3　2017 年の 4 市の経済状況と高等教育の関連指標[31]

	北京市	唐山市	西安市	漢中市
人口（常住人口、万人）	2,170.70	789.70	961.67	344.93
面積（km²）	16,410.54	13,472.00	10,752.00	27,246.00
GDP（億元）	28,014.90	6,530.15	7,471.89	1,333.30
GDP 成長率（前年比、%）	6.7	6.3	7.7	9.6
平均年間給与（元）	115,143	66,843	75,566	56,830
インフラ投資額（億元）	28,984.20	1,340.96	2,547.56	498.50
不動産開発面積（施工中住宅、万平米）	5,506.60	2,882.44	11,134.28	709.71
不動産開発面積（竣工住宅、万平米）	604.00	207.60	1,281.71	119.62
高等教育機関の数[32]	175	11	63	3
うち本科大学の数	67	5	50	1
高等教育機関の在学生[33]（人）	2,010,392	143,357	1,224,995	46,200

以上の 4 市にある大学を訪問し、教育研究の実状を調査した。比較のために分野を統一し、日本語専攻の教員にインタビューを行った。

4-2. 北京市－北京外国語大学

4-2-1. 大学概要[34]

創立　1941 年
所轄　中華人民共和国教育部
類別　公立大学
類型　語言
学位授与専攻数　修士 13／博士 8
教育組織数　26
学生数　学部生 5,290 人／大学院生 2,663 人
教員数　1,269 人[35]

北京外国語大学の図書館

[31] 「北京市統計年鑑 2018」http://tjj.beijing.gov.cn/nj/main/2018-tjnj/zk/indexch.htm
「唐山市統計年鑑 2018」http://www.tangshan.gov.cn/u/cms/www/201901/15153814t02h.pdf
「陝西省統計年鑑 2018」http://www.shaanxitj.gov.cn/upload/201802/zk/indexch.htm
「西安市統計年鑑 2018」http://tjj.xa.gov.cn/ptl/def/def/2018/zk/indexch.htm
「漢中市 2017 年国民経済和社会発展統計公報」http://tjj.hanzhong.gov.cn/tj/tjgb/201803/t20180328_503002.html
を元に筆者作成。一人当たり GDP などの他の数値は公表していない市もあったため、4 市とも公表しているデータをピックアップした。
[32] 本科（学部に相当）、専科（専門学校に相当）、成人教育機関、私立機関を含む。
[33] 各高等教育機関に在学する学生、大学院生を含む。
[34] 北京外国語大学ホームページ http://www.bfsu.edu.cn/overview および http://www.bfsu.edu.cn/postgraduate
[35] 正規の定員の人数。うち 90%以上が海外での学習・研究経験あり。この他に外国人教員が 165 人。

4-2-2. 日本語学院 曹星 副教授へのインタビュー（2019 年 1 月 8 日）

〇教員について

専任教員が 23 名（うち教授 3 名[36]、副教授 12 名、講師 8 名。博士号取得者 17 名、修士号取得者 4 名）いる他、毎年 2 名の日本人教員（常勤）を招へいしている。

受け持つ講義数は教授・副教授・講師・助教ともに週 8 時間で、講義のための準備や宿題のチェック等に係る時間が多く、研究のための時間が十分に取れているとは言えない。加えて、学生からの質問に対応するオフィスアワーを 2~3 時間設けている。オフィスアワーは教師によって実施している人とそうでない人がいる。評価とは無関係のため、教師としての責任感による活動である。出張は、学会出張が年に 1 回程度（予算の制限もあり、多くは行けない）、学生募集のための出張が年に 1 回程度ある。学生募集のための出張では、中国国内の外国語学校（高校）に行く。

〇学生について

学部では毎年、既修者・未修者合わせて 75 名を募集しており、入学後は 3 クラス（高校からの推薦入学者のみのクラスを含む）に分け、学生のレベルに合わせて集中的に教育をしている。韓国と日本からの留学生がいる。

〇カリキュラムや卒業要件について

日本語だけではなく、第二専攻として法律や経済などを学ぶ。

2 年生修了時に、日本語専攻の試験[37]4 級（日本語能力試験 2 級に相当）に合格しないと留年、4 年生修了時に、同 8 級（日本語能力試験 1 級相当以上）に合格しないと留年、という条件がある。日本語能力試験の受験は義務ではないが、多くの学生が受験し、合格している。

〇学生の卒業後の進路について

政府機関や研究機関、日系企業を含む民間大手企業などへ就職する学生や、国内外（日本を含む）の大学院へ進学する学生がいる。

〇教材について

以前は中国で作られたものを使っていたが、最近は日本で購入した資料や教材を使っている。大学院生と学部生とで教材は使い分けをしている。（右は、使用している教材の一部）

[36] 10 年ほど前に教員制度が変わり、教授になるのが難しくなったとのこと。

[37] 「大学日語四六級考試」https://baike.baidu.com/item/大学日语四六级考试/2072141
「日語専業八級」http://japan.people.com.cn/207263/207269/8237064.html
中国国内の大学の日本語専攻に在学する者を対象とした日本語の能力を測る試験。試験の開催通知や受験申込み等は在学する大学を通じて行われる。

○国内外の大学との交流について

早稲田大学や立教大学をはじめ、日本の大学との交流がある。

○国内の他大学の日本語専攻との差別化について

外国語大学の学生の強みは語学である。法律や経済を専攻している学生と比べると、外資系企業ですぐに語学を活用することが出来る。法律や経済専攻の学生は国内企業への就職に、外国語大学の学生は外資系企業への就職に優位性がある。また、学生のコミュニケーション能力向上にも力を入れており、語学だけでなく対象国の文化や歴史など様々なことを教えている。

4-3. 唐山市－華北理工大学

華北理工大学の新キャンパス（尚講師提供）

4-3-1. 大学概要[38]

創立	1895 年
所轄	河北省
類別	公立大学
類型	総合
学位授与専攻数	修士 25／博士 3
教育組織数	29
学生数	学部生 27,435 人／大学院生 3,203 人
教員数	1,834 人[39]

4-3-2. 外国語学院日語系 周志柏 教授、尚団 講師へのインタビュー（2019 年 1 月 11 日）

○教員について

専任教員が 11 名（うち博士号取得者 2 名、修士号取得者 9 名。いずれも赴日経験あり）と日本人教員 2 名（いずれも 1～2 年単位の契約）がおり、低学年担当と高学年担当に分かれている。新任教員はベテラン教員について、教学方法を相談することが可能となっている。

受け持つ講義数は週 6～7 時間で、講義以外では自主的にプロジェクトの申請をしたり書籍の出版をしたりする。研究に関して大学からの要求は特にない。出張は研修や学会等で年に 2～3 回程度、行くことがあるが、日本に行く機会は少ない。各自で如何にチャンスを得るかによる。毎年、日本語専攻の教員の集まりがあり、講演や講義方法のコンテストも開かれる。コンテストで受賞すると、評価の際の加点要素となり、また本人の上司にとっても加点となる[40]。

キャンパスが唐山市南部に移転になり、学生達は新キャンパスに移ったが、多くの教員は市中

---

38 華北理工大学ホームページ http://www.ncst.edu.cn/col/1511411853275/index.html

39 専任の教員数

40 中国の 4 つの大学で教員経験のある元西安交通大学教員の三村達也氏によると、学生の卒論指導・各種コンテストでの指導において、学生が顕著な成績をおさめた場合、大学側が教員を評価するケースが多い、とのこと。

に住んでおり、大学バスで新キャンパスまで行くことは出来るが、片道約 1 時間半かかるため、授業がない日は新キャンパスには行かない、とのことだった。そのため、教員同士が顔を合わせる機会が減ってしまったため、WeChat でグループを作成し、情報共有をしている。WeChat で学生から質問を受けることもある。

〇学生について

学部では毎年、30 名を募集しており、留学生はいない。

〇カリキュラムや卒業要件について

日本語以外の第二専攻は任意で、経済や法律などを専攻する学生もいる。

日本語の試験の受験については、大学としての要求は特にない。しかし、日本語能力試験の取得級の有無や級数が就職を左右しており、企業によっては、取得級によって初任給が異なるところもあるため、日本語能力試験を受験する学生が多い。傾向としては、2 年生修了時に 2 級を受験し、3 年生から 1 級に向けて勉強し、受験する。例年、数名の合格者がいる。

〇学生の卒業後の進路について

就職状況は、外資系企業（日系）に通訳等として就職する人が比較的多いほか、大学院進学、海外留学（日本を含む）をする学生もいる。留学に関しては、日本語専攻の学生を対象とした国外機関との交流はないため、各自で模索している。

〇教材について

以下は、使用している教材の一部。

総合テキスト

リーディング

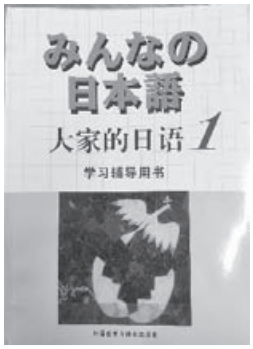
リスニング

リスニング

翻訳

概説

ライティング



教員用テキスト

4-4. 西安市－西安交通大学

西安交通大学四大発明広場

4-4-1. 大学概要[41]

創立	1896 年
所轄	中華人民共和国教育部
類別	公立大学
類型	総合
学位授与専攻数	修士 45／博士 31
教育組織数	29
学生数	学部生 19,184 人／大学院生 18,919 人
教員数	3,072 人[42]

4-4-2. 外国語学院日語系[43] 霍士富 教授・主任へのインタビュー（2019 年 1 月 22 日）

○教員について

専任教員の数は 16 人（うち教授 5 名、副教授 7 名、講師 4 名。博士号取得者 6 名、いずれも留学や在外研究の経験あり）

受け持つ講義数は週 6～8 時間で、研究や論文執筆[44]に割ける時間は十分と言える。講義以外の時間に質問を受けるなど、学生との交流もある。出張や日本へ行く機会は多くなく、共同研究も少ない。文系は共同研究が（相対的に）しづらいのに加えて、我々教員の意識の問題（積極的に申請を探すか否か）もあると思う。

○学生について

学部では毎年、40 名を募集しているが、実際の入学人数は 30 人弱。韓国からの留学生がいる。英語や仏語専攻は定員が埋まるが、就職機会の減少[45]に伴い、近年は定員が埋まらない。

従前の「班主任制度」[46]から学生管理体制が変わり、「書院」が出来た。「書院」では、異なる専攻の学生が一つの棟に住み、講義に出ているかどうかの管理や何かの活動がある時の連絡を職員が行っている。学生同士の交流が出来るのはメリットだが、教師による管理の方がより人間味があると思う。班主任制度は残っているが、教師と学生の交流は以前ほど密ではなく、学生との距離は少し離れてしまった。

---

41 西安交通大学ホームページ http://www.xjtu.edu.cn/jdgk/jdjj.htm

42 専任の教員数

43 西安交通大学外国語学院日語系ホームページ
http://www.xjtu.edu.cn/xynr.jsp?urltype=tree.TreeTempUrl&wbtreeid=1634&wbxjtucollegeid=356

44 霍教授によれば、西安交通大学では、日本で発表した論文も実績としてカウントするが、多くの大学では認められない。そのため、日本語に関して中国国内で発表される論文数はとても少なく、日本語教師にかかるプレッシャーが大きい。また、日本で発表した論文は昇進の際に評価対象となるが、報奨金等の対象とはならない。

45 以前は、西安にも富士通や NEC 等の日本企業をはじめとする外資系企業が多かったが、コスト（主に人件費）上昇に伴ってそれらの企業は去ってしまった。今後、一帯一路政策によって西安や更に内部に企業が進出してくることは、あまり望めない。人件費は上昇し続けているため、東南アジアと比べるとやはり厳しいだろう、とのこと。

46 担任制のこと

学生に対する評価としては、個人差はあるが、全体としてとても主体的である。一部、教師とのコミュニケーションがうまく取れない学生や、成績が良くない学生もいる。特に、少数民族や青海省、チベット自治区などからの学生は、入学時の点数から低く[47]、試験時の目標も低い。

○カリキュラムや卒業要件について

今年から「双語言（二つの言語）」クラスの試みが始まり、日本語＆英語を専攻するクラスで募集をかけたところ、定員 20 人に対して 15 人集まった。英語専攻では、英語＆フランス語、英語＆ロシア語等のクラスを設けており、隔年で募集している。

第二専攻については、「選修」と呼んでおり、会計や金融、法律などを選択履修する。平日の夜や週末の講義に出席し、卒業時には論文を日本語と選修科目の 2 本書くことで、2 つの学位を取得することが可能である。

卒業要件としては、日本語能力試験 1 級を取得することである。例年、95%の学生が 3 年生の時点で合格する。

○学生の卒業後の進路について

例年、卒業生の半分が就職、半分が進学している。進学者のうち、半分は国内の大学院[48]に進み、（20%ほどは推薦、例：上海交通大学）、半分は国外の大学院（英語も出来る学生はアメリカに行く場合もある）に進んでいる。

就職状況は、学部生も大学院生もあまり良くない。今年は 2～3 人が就職先を見つけられず、新卒で見つからないと、翌年は更に機会が減ってしまう。また、西安は就職の機会が少なく、広州や深圳などの南方に行く学生が多い。北京や上海に行く学生もいるが、生活費がかかるため、日本語専攻の学生はあまり多くない。

○教材について

1 年生は既定の教材を、2 年生以降の教材は教員が各自で決めた教材を使う。右は、使用している教材の一部で、左：リスニング、右：総合テキスト。

MOOC での日本語の授業の配信[49]があり、2019 年 3 月に開講する講座では既に 25,000 人を超える登録がある（2019 年 2 月 12 日現在）

---

[47] 大学地域別学生募集制度（原文：大学分地区招生制度）によって配分される。
各大学の入学定員は試験の前に既に各省に割り当てられ、各省は省内の受験生の入試成績と全国全ての大学から配分された募集定員の合計に基づいて、当該省の大学合格ラインを決める。各大学は合格ラインをクリアした受験生の志願と成績を、事前に定めた入学定員の枠に合わせて、当該大学の合格者を選出する。大学が各省で学生を募集するために、それに先立って定員を地域別・専攻別に割り当てる『学生地域別募集計画（招生来源計画）』を立てる。学生が出願する際、各大学の『学生地域別募集計画』に基づいて、複数の大学名とそれぞれの専攻名を願書に書き込み、提出する。一方、中央政府は『学生地域別募集計画』を調整することを通じて、各省の高等教育進学率を計画的にコントロールし、高等教育機会の地域間格差を是正することができる。
竇心浩「中国の大学入試」『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』2018 年 6 月

[48] 西安交通大学の博士課程は、3～5 年かけて研究をして学位を取得するタイプと、論文博士のように、単位を取り終えてから働きながら博士論文を書いて学位を取得するタイプがある、とのこと。

[49]「中国大学 MOOC　大学日語」https://www.icourse163.org/course/XJTU-1002533017

○国内外の大学との交流について

国内の機関との連携は少ない。外資系企業を見学したり、通訳機関で研修をしたり、資料を翻訳したりすることはある。研究機関との連携はない。

国外との協力関係は、日本も含め多い。日本に行きたくない（行く必要がない）と考える学生もいるものの、学生の 3 分の 2 は日本に行く機会が得られる。具体的には、慶応大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、筑波大学、一橋大学、同志社大学、大阪大学、名古屋大学、広島大学、山口大学、長崎大学などと交流協定があり、概ね 2 人ずつ、半年間あるいは 1 年間派遣する。単位の認定があり、学費は免除だが、生活費は自己負担である。協定上は交換留学だが、日本からの学生は来ていない。

○国内の他大学の日本語専攻との差別化について

西安交通大学は理系分野から始まった大学のため、「科技日語（科学技術に特化した日本語）」に強みがあり、物理や化学、数学などの理系基礎科目も学ぶ。例えば、西安外国語大学と比べると、日本語のスピーキング力は及ばないかもしれないが、理系の基礎知識や実験作業などの技術的な点では強い。ただ、近年は、数学を学んだ学生が経済学を専攻するなど、文系の要素も加わり、履修科目に大きな変化はないが、以前ほどの強みはなくなってきた。外国語大学と比べると、語学以外の知識があることが強みと言える。また、修士課程だけでなく、博士課程も設けて、研究型の学生を育成している。他大学は、どちらかと言うと教学型、応用型（語学を学んで仕事で使う）で、博士課程まである大学は少ない。

4-5. 漢中市－陝西理工大学

陝西理工大学南キャンパス

4-5-1. 大学概要[50]

創立	1958 年
所轄	陝西省
類別	公立大学
類型	理工
学位授与専攻数	修士 7
教育組織数	20
学生数	学部生 19,184 人／大学院生 18,919 人
教員数	1,182 人[51]

4-5-2. 外国語学院日語系 焦惠 講師へのインタビュー（2019 年 1 月 23 日）

○教員について

[50] 陝西理工大学ホームページ http://www.snut.edu.cn/xxgk/xxjj.htm
[51] 専任の教員数

専任教員が 8 人（うち 6 割が修士学位以上取得者。約半数が赴日経験あり）と日本人教員が 1 名（毎年契約）いる。

受け持つ講義数は、週 8～10 時間で、講義以外に研究や論文執筆などをしている。講師の場合、3 年や 5 年の任期中、年に 2～3 本の論文を核心期刊[52]に収録されている学術雑誌に発表することが求められており、負担が大きい。出張は少なく、また、教員の年収が 5～6 万元なので、日本へ行くのは難しい。

○学生について

学部では毎年、30 人程度（1 クラス）を募集している。学生は全国から集まるが、南方からの学生の方が、成績が良い傾向がある。「班主任制度」があり、クラスの WeChat グループを作り、授業に関する質問をするなどの交流している。

○カリキュラムや卒業要件について

一般教養にあたる講義はなく、各自で学習する。第二専攻の履修は可能だが、学位を 2 つ取得することは出来ない。

日本語の試験の受験については、大学としての要求は特になく、日本語能力試験は任意で受験している。昨年、日本語能力試験 1 級に合格した学生が 1 名おり、日本へ留学した。1 級合格者は例年 1～2 名、2 級の合格者が多い。

○学生の卒業後の進路について

就職率は比較的良い。企業に勤めるほか、通訳（沿海地区の企業など）や教師になる学生もいる。また、西安外国語学院や大連外国語学院へ進学する学生もいる。これまでの実績としては、立命館大学に進学した学生がいる。

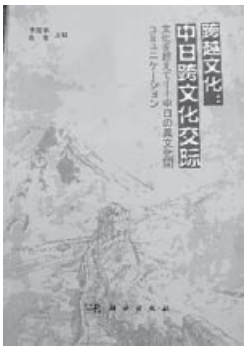
○教材について

以下は、使用している教材の一部。

リスニング

翻訳

ガイド実務



異文化交流

[52] 北京大学図書館の「中文核心期刊要目総覧」や南京大学の「中文社会科学引文索引（CSSCI）来源期刊」などの学術雑誌目録のこと。北京外国語大学の曹副教授によると、日本語を専門とした学術雑誌はないため、日本語を専門とする研究者は論文発表という点では不利である。そのため、日本語そのものではなく、日本文学あるいは日本語の教学法などに関する論文を発表することになる、と焦講師も言っていた。

○国内外の機関との交流について

富士常葉大学と交流協定があり、同大学に半年間 or 一年間派遣され、経営学や環境学などを学ぶ。単位認定あり。但し、現在は、富士常葉大学の組織改編により、派遣はほぼない。

5. 考察

4 大学へのインタビュー通して筆者が感じたことは、格差と言えるほどの顕著な差はないものの、細部において差異はある、ということである。例えば、所属する教員の学位取得状況、学生のレベル、学生の卒業時の日本語能力に対する要求、他大学との差別化に対する意識、などである。顕著な格差が見られなかった理由として、日本語専攻という、文系で言語学、という相対的に競争が激しくない分野を選んだためだと考える。自然科学分野の専攻においては、より明確な違いを見出すことが出来たのではないか、と反省する。

共通点として挙げられるのは、教員一人あたりの講義数、出張、学生との交流、学生の第二専攻の履修状況、などである。また、日本と比較すると、中国の学生は、地域や大学の大小を問わず総じて真面目である[53]。日本語専攻、という限定的な分野でも、それぞれの大学あるいは専攻が備え持つ条件の下で、工夫しながら教育研究を行っていることは、評価すべき点であり、引き続き注目すべき点でもある。

今後の研究開発と科学技術イノベーションにより、教育環境が変化し、後進地域の教育水準の向上に寄与することが期待できる。新しい科学技術に対する理解と、それを使いこなすための知識が普及するには時間がかかる[54]が、長期的な展望として、北京や上海だけなく、内陸部からも優秀な人材の輩出が尽きないであろうことを最後に述べておきたい。

謝辞

本報告書の作成にあたり、多くの方にご協力を頂きました。方向性についての助言と訪問先の紹介をしてくださった中国社会科学院の曹斌先生をはじめ、インタビューに応えてくださった北京外国語大学の曹星先生、華北理工大学の周志柏先生と尚団先生、西安交通大学の霍士富先生、陝西理工大学の焦惠先生、学期末にも関わらずお時間を頂きありがとうございました。

また、様々な業務に携わる機会を与えてくださった JSPS 北京研究連絡センターの廣田センター長、藤田副センター長、常に温かく見守り支えてくださった江さん、佘さん、そして一年間共に研修に励んだ井上国際協力員にも、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

---

[53] 三村達也

[54] 鄭永和（北京師範大学教授）との交流

参考文献

※本文における参照順

※ウェブページは全て 2019 年 2 月 12 日最終アクセス

[1] 「世界の実質 GDP 国別ランキング・推移」（2019 年 1 月 25 日）
https://www.globalnote.jp/post-1332.html

[2] 「世界の実質 GDP 成長率 国別ランキング・推移（IMF)」（2018 年 10 月 12 日）
https://www.globalnote.jp/post-12798.html

[3] 「世界の 1 人当たり名目 GDP　国別ランキング・推移（IMF)」（2018 年 10 月 12 日）
https://www.globalnote.jp/post-1339.html

[4] 『中国統計年鑑 2018』
http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2018/indexch.htm

[5] 「中国『一帯一路』どう見る㊤」（2017 年 7 月 20 日）
日本経済新聞　2017 年 7 月 20 日　31 面『経済教室』

[6] 「中国『一帯一路』どう見る㊦」（2017 年 7 月 21 日）
日本経済新聞　2017 年 7 月 21 日　27 面『経済教室』

[7] デロイト（德勤中国）「一帯一路の最新動向と中国経済に関するアップデートセミナー」（2018 年 8 月 20 日）

[8] 河合正弘「中国の『一帯一路』構想とは何か」（2016 年 3 月）『中国「一帯一路」構想および交通インフラ計画について』
国立研究開発法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター

[9] 「軽視できぬ中国『製造強国』の伝播力」（2017 年 9 月 4 日）日経ビジネス電子版
https://business.nikkei.com/atcl/report/15/278202/090100069/

[10] 胡志平「『211』『985』『二つの一流』と中国のハイレベル大学建設について」（2017 年 10 月 16 日講演）
国立研究開発法人日本科学技術振興機構中国総合研究交流センター第 109 回研究会

[11] 新井聡「中国 2015 年高等教育法改正の意義」（2018 年 6 月）
『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』

[12] 関維方「中国高等教育の発展戦略」（2018 年 6 月）
『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』

[13] 「世界一流大学和一流学科」
https://baike.baidu.com/item/世界一流大学和一流学科/22135305

[14] 「高考派大学知名度排行（高考派大学知名度ランキング)」
http://www.gaokaopai.com/paihang-otype-6.html

[15] 新東方「2019 中国大学排名 100 强」
http://gaokao.xdf.cn/201812/10838484.html

[16] QS「University Ranking of Mainland China 2019」
https://www.topuniversities.com/university-rankings/rankings-by-location/mainland-china/2019

[17] 鈴木貴元「デジタル時代の中国地域開発」（2018 年 12 月 13 日）
ジェトロ北京事務所によるミニ勉強会「中国の地域開発動向と PPP モデルの実態」

[18] 「北京市統計年鑑 2018」

http://tjj.beijing.gov.cn/nj/main/2018-tjnj/zk/indexch.htm

[19] 「唐山市統計年鑑 2018」

http://www.tangshan.gov.cn/u/cms/www/201901/15153814t02h.pdf

[20] 「陝西省統計年鑑 2018」

http://www.shaanxitj.gov.cn/upload/201802/zk/indexch.htm

[21] 「西安市統計年鑑 2018」

http://tjj.xa.gov.cn/ptl/def/def/2018/zk/indexch.htm

[22] 「漢中市 2017 年国民経済和社会発展統計公報」

http://tjj.hanzhong.gov.cn/tj/tjgb/201803/t20180328_503002.html

[23] 北京外国語大学ホームページ

http://www.bfsu.edu.cn/overview および http://www.bfsu.edu.cn/postgraduate

[24] 「大学日語四六級考試」

https://baike.baidu.com/item/大学日语四六级考试/2072141

[25] 「日語専業八級」

http://japan.people.com.cn/207263/207269/8237064.html

[26] 華北理工大学ホームページ

http://www.ncst.edu.cn/col/1511411853275/index.html

[27] 西安交通大学ホームページ

http://www.xjtu.edu.cn/jdgk/jdjj.htm

[28] 西安交通大学外国語学院日語系ホームページ

http://www.xjtu.edu.cn/xynr.jsp?urltype=tree.TreeTempUrl&wbtreeid=1634&wbxjtucollegeid=356

[29] 竇心浩「中国の大学入試」（2018 年 6 月）

『IDE 現代の高等教育　No.601　中国高等教育の新動向』

[30] 「中国大学 MOOC　大学日語」

https://www.icourse163.org/course/XJTU-1002533017

[31] 陝西理工大学ホームページ

http://www.snut.edu.cn/xxgk/xxjj.htm